

令和2年(2020年)漁期のハタハタ漁獲対象資源量の予測結果(第1報)

本年春季に試験船青鵬丸で行った調査結果をもとに、本県のハタハタ漁獲対象資源量の予測を行いましたのでお知らせします。

1. 予測方法

青森県沿岸で漁獲されたハタハタ漁獲物を調べ、雌雄別、年齢別の漁獲尾数を推定し、VPA(virtual population analysis)の前進法により青森県における雌雄別、年齢別の漁獲対象資源量を推定しました。

毎年4月～6月に試験船青鵬丸が行った本県沖合におけるオッタートロール調査から求めた雌雄込みのハタハタ1歳魚分布密度と、VPAで求めた雌雄別1歳魚資源量の回帰式に2019年、2020年の1歳魚分布密度をあてはめ、両漁期の雌雄別1歳魚漁獲対象資源量を求め、前進法で推定した2歳魚、3歳魚、4歳以上の結果と合わせて、2020年漁期*の本県における1歳魚～4歳魚以上の漁獲対象資源量を推定しました。

※漁期は9月～翌年8月

2. 結果 — 令和2年(2020年)漁期のハタハタ漁獲対象資源 —

漁獲対象資源量は前年並み、主体は1歳魚。

2020年漁期に本県で漁獲対象となるハタハタ資源量は、前年並みの1,608トンと推定されました(前年比93%) (図1)。年齢別に見ると、1歳魚が1,020トンで資源の大部分を占めています(図2)。

ハタハタは産卵のために接岸します。ハタハタのオスは1歳で成熟しますが、メスは1歳では一部の個体のみが成熟するとされています。沿岸漁では、産卵のために接岸する群れを漁獲対象とするため、1歳魚来遊資源のうち、未成熟個体は漁獲対象となりません。

今後、試験船青鵬丸が実施する予定の漁期前分布調査と、近県の漁獲、資源情報、沿岸の水温情報をもとに精査し、初漁日の予測結果と合わせて11月末に第2報として再度お知らせいたします。

※対前年比±20%未満：並み、21%以上40%未満：やや、40%以上60%未満：かなり、60%以上：はなはだ

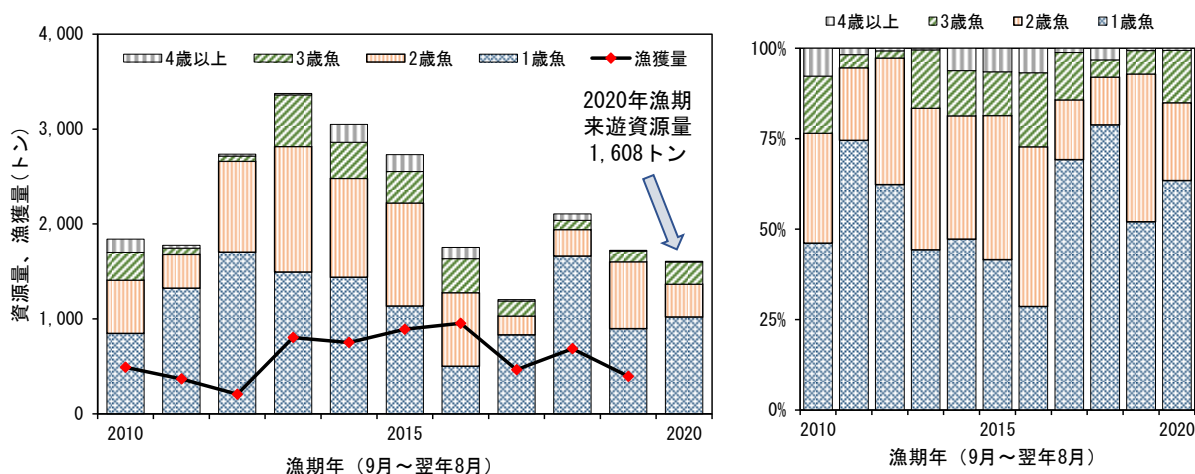


図1(左) 青森県のハタハタ漁獲対象資源量(棒グラフ)と漁獲量(折線)の動向
図2(右) 青森県のハタハタ漁獲対象資源量に占める年齢別割合 ※2020年は予測結果